

人と場へのFM資産価値研究部会

未来型ヒューマン・コミュニティオフィスの展望

部会長 **岡田 大士郎**
 おかだ だいしろう

株式会社HLD Lab 代表取締役社長



本稿では、未来のオフィスの在り方とワークスタイルの展望を「未来型サステナブル・ヒューマン・コミュニティオフィスの展望」として考察する。

はじめに、人間にフォーカスした価値創造空間としての「サステナブル・ヒューマンコミュニティオフィス」の在り方と、「場」づくりスタイルを具現化、普遍化し、近未来の実社会に実装していくためのディレクションや、方法論と実践的なデザインコンセプトを示してみたい。

筆者は「サステナブル・ヒューマン・コミュニティオフィス」の根幹理念は、①人間の集い場 ②人間の夢中創造の場 ③自他の区別無く人生時間を共有する場 ④心身健康に配慮されている場 ⑤心理的安全性に満たされた場 ⑥知の創造を促進する SECI モデルオリエンテッドの場 ⑦コーポレート・ウェルビーイング（組織事業の成功）とエンployee・ウェルビーイング（働く人々の幸せ）が調和されている場、の7つの視点を考えている。

いわば、SDGs コンセプトに適合する「人類幸福実現」の場ともいえる。

オフィス概念を「働き方」のみにフォーカスさせるのではなく、人間一人ひとりの「暮らし方」、つまり「人生の生き方」の観点をも抱合させた「場」としてとらえる考え方である。

従来のオフィス定義は、「決められた時間と決められた場所で、社員等が出勤し交流しながら働く場所」的解釈がされていた。筆者は、こうしたトラディショナルなオフィス概念は、ニューノーマル社会では、多様でフレキシブルな「人間の活動場」としてのオフィス概念にトランスフォーム進化してゆくものと考えている。

その新たな概念は以下の3点。

- ①人間社会の多様なコミュニティをつなぐ「社会場」としての機能
- ②働き暮らす人間個々の集団が、人生幸福意識（わくわく）を共有しながら共存・共生し、社会価値を創造していく「共創意識の場」としての役割
- ③働き集う人々が、快適で想像性に富む空間の中で、人生の「居場所」としての「喜びや安心感」を感じられる「心の交流場」としての存在、である。

重要な視点は、共通する組織目的や社会目的を持つ人間同士が、リアルに意識交流し、個々人の暗黙知を、組織レベルで形式知化させてゆく知的コミュニケーションを促す「社会場的リアル時空間」が不可欠であるということ。組織社会が、ワーカーの潜在的な能力を有効に発出できる「心理的安全性」に満たされた「場」を提供し、事業創造やイノベティブ価値を創出するワーカーにとって、「最高のパフォーマンス」を発揮できる「共創的な場」を演出することにより、組織の創造的生産性は格段に向上することが期待できる。

さらには、働く人々の「心身健康」と、健康で幸福を意とする「ウェル・ビーイングの場」の創出と、「ディーセント・ワーク」に資する SDSs フィロソフィーに合致した理念とアクションプログラムにも通じるものである。

「未来型ヒューマン・コミュニティオフィス」とは、人類知共創の世界とソーシャル・ハビネスの実現に向けた「人と場」の在り方を問いかけるコンセプトでもある。◀

- | |
|---|
| ① 人間の集い場
② 人間の夢中創造の場
③ 自他の区別無く人生時間を共有する場
④ 心身健康に配慮されている場
⑤ 心理的安全性に満たされた場
⑥ 知の創造を促進する SECI モデルオリエンテッドの場
⑦ コーポレート・ウェルビーイング（組織事業の成功）とエンployee・ウェルビーイング（働く人々の幸せ）が調和されている場 |
|---|

図表1 「サステナブル・ヒューマン・コミュニティオフィス」の7つの根幹理念

- | |
|--|
| ① 人間社会の多様なコミュニティをつなぐ「社会場」としての機能
② 働き暮らす人間個々の集団が、人生幸福意識（わくわく）を共有しながら共存・共生し、社会価値を創造していく「共創意識の場」としての役割
③ 働き集う人々が、快適で想像性に富む空間の中で、人生の「居場所」としての「喜びや安心感」を感じられる「心の交流場」としての存在 |
|--|

図表2 ニューノーマル社会のオフィス概念